

実務経験のある教員による授業科目一覧 2021(令和3)年度

	担当教員名	授業科目名	履修学年	単位数	配置学部 または学科	科目 区分	方法	授 業 内 容
1	糸川 裕子	情報機器演習	1	2	全学共通	教養	講義	SEとしてソフトウェア開発業務に従事した経験を生かし、再利用可能なデータの作成方法や伝わりやすいデータの提示方法など、実社会で有益なソフトウェアの利用方法を教授する。学校教育現場でのコンピュータ普及に対応するため、コンピュータの機能と活用及び今日のコンピュータの状況についての一般的理解を得ると共に、音楽教員に必要なコンピュータ操作の初歩を習得する。
2	壬生 千恵子	世界音楽文化Ⅱ	2～4	2	音楽文化学科 演奏学科	関連	講義	諸外国の伝統音楽団体の招へい業務と海外での音楽関連業務の経験を活かし、世界の様々な音楽と文化を紹介する。音と映像を通じて、音や音楽に対する知見を増やし、様々な考え方を俯瞰的に捉えられるようになることを目的とする。世界の諸民族の様々な音楽についての知見を得て、音楽文化と地域・社会との関連性を深く理解していく精神的土台を築く。
3	アント, フランシスコ	人間学Ⅱ-1	2～4	2	全学共通	教養	講義	現職カトリック司祭としての司牧経験を活かし、キリスト教の文化、正確に言えばカトリック教会の伝統、儀式、祈りなどについて教授する。音楽の世界においても、クラシック音楽、宗教音楽、グレゴリオ聖歌の土台となっているのは、キリスト教の文化である。ヨーロッパのクラシック音楽またはグレゴリオ聖歌の理解をより深めるため、キリスト教の文化(その中にカトリック教会)を学ぶ。
4	福原 之織	音楽科教育法Ⅰ	2	2	教職	教職	講義	中学校・高等学校教諭(音楽)としての経験ならびに小学校での音楽科指導と管理職経験を活かし、授業を行う。①学校音楽教育の歴史的概観を学び、音楽教育の意義、音楽教育を実践する教師のあり方について考察する。②学習指導要領に示された教科の目標と内容、および指導上の留意点や評価について理解する。③授業設計、教材研究および学習法の選択についてその重要性を理解し、学習指導案試作に取り組み。④グループでの模擬授業実施とふりかえりを通して、改善点を見出す。
5	小松 葉子 古土井 正巳	音楽科教育法Ⅱ	3	2	教職	教職	講義	中学校・高等学校教諭(音楽)としての経験ならびに小学校での音楽科指導と管理職経験を活かし、授業を行う。授業デザイン(学習指導計画・指導案作成等)と具体的な授業指導力(教材研究と開発、授業方法開拓等)および領域別の指導法について学び、多様な授業実践例を取り上げ、考察する。鑑賞授業に資する関係特殊楽器体験や模擬授業などの演習を交えて必要な指導スキルを身につける。
6	福原 之織 小松 葉子	音楽科教育法Ⅳ	4	2	教職	教職	講義	中学校・高等学校教諭(音楽)としての経験ならびに小学校での音楽科指導と管理職経験を活かし、授業を行う。本授業は、教育実習をはさんで行われるため、内容は学習指導案作成、模擬授業、それらに必要な教材研究、指導法研究等が中心となる。その中で、「各授業における適切な学習目標設定」に応じた「適切な学習環境作り、教材開発、学習演出方法」など実践的な授業力を高めることにポイントを置き、教員として必要な資質および授業力の向上を図る。また、教育現場への見学に出向き、優れた実践から学ぶとともに、教員採用試験に向けた過去問演習等も行う。
7	荻原 忠浩	コンサートマネジメントⅡ	2～4	2	全学共通	全学 共通	講義	25年間在籍したプロオーケストラの事務局で培ったオーケストラマネジメントの豊富な経験に基づき授業を行う。コンサート、音楽イベントに関する実務スキルを、各種の学外実践を通して学び、態度、マナー、実務スキル、考え方などを理解する。コンサート、音楽イベント制作・実務に関する様々なスキルを習得する。
8	福原 之織 川野 祐二 竹信 ひとみ	教師論	1	2	教職	教職	講義	担当教員3名のうち、1名は学長の立場から教職の厳しさについて指導する。ほか2名のうち、1名は中学校・高等学校教諭(音楽)、小学校音楽科の指導経験をもち、また1名は小学校教諭としての経験があり、両名とも小学校管理職経験者である。それらの知識と経験を活かした授業・指導を行う。幼稚園教員免許および中学・高等学校の音楽科教員免許取得に向けた基本的な学習として、次のような内容を学習する。①教職の意義、教員の社会的な役割、資質能力、職務内容等とその責任、求められる教師像ならびに拡大化、多様化する学校の担う役割と、内外の専門家との連携分担による組織的な対応の重要性。②協働、連携、分担して組織的に諸課題に対応する教育現場の、具体的な仕事内容。(小学校でのボランティア体験を含む)③チームで働く資質を磨くためのグループワークとプレゼンテーション。(アクティブ・ラーニング)講義は川野および福原が代表をつとめ、授業を行う。
9	壬生 千恵子 前田 由樹 アント, フランシスコ	人間学Ⅲ-1	2～4	2	全学共通	教養	講義	現職カトリック司祭の経験をもとにカトリシズムに基づく奉仕活動を広く理解し、ホールやアートNPOにおける人材育成事業とキャリア支援活動、ボランティア育成事業等の実績をもとに、音楽大学での学びを社会貢献に活かす奉仕活動として、音楽アウトリーチを高年齢者施設等で実践する。
10	福原 之織 竹信 ひとみ 小松 葉子	教職実践演習(中・高)	4	2	教職	教職	講義	担当教員3名は中学校・高等学校教諭(音楽)・小学校音楽科の指導等、それぞれに豊富な現場経験があり、また小中学校管理職経験者である。それらの知識と経験を活かした授業・指導を行う。この授業は教職課程における学修の総仕上げとして、各学生が教職に必要な実践力を高めるためのものである。教育実習をふまえた音楽科の指導法研究、具体的な指導スキルを磨く少人数での授業演習を通して、音楽科教員としての教科指導力のさらなる向上をはかる。また、児童生徒理解のためのロールプレイなど、グループワークを中心とした実践的な演習を行うとともに、現職(元職)からの話を聞き、考察を行うことを通じて教育現場の実情への意識を高め、教員としての資質の向上に役立てる。
11	壬生 千恵子 木谷 智子	音楽文化卒業演習Ⅰ	4	2	音楽文化学科	主要	演習	音楽学、音楽教育学に学問的基礎をおきながら、文化財団管理職、劇場、国際音楽祭など、担当教員の国内外の舞台制作・音楽企画プロデュース・劇場運営の経験に基づいた授業を行う。応用音楽学、アートマネジメント、心理学に関わるそれぞれの専門において、①意味づけする力(考察力、分析力)、②企画・実践力、③文章力、④プレゼンテーション能力、⑤①～④をふまえた総合的コミュニケーション能力を育成することを主たる目的とし、4年間の学びの総まとめとする。具体的には、教員の指導・助言を受けながら、各自がテーマに沿った実践・研究を進め、発表を行っていく。

実務経験のある教員による授業科目一覧 2021(令和3)年度

	担当教員名	授業科目名	履修 学年	単位数	配置学部 または学科	科目 区分	方法	授 業 内 容
12	壬生 千恵子 木谷 智子	音楽文化研究演習I	3	2	音楽文化学科	主要	演習	文化財団管理職、劇場、国際音楽祭など、国内外の舞台制作・音楽企画プロデュース・劇場運営の経験に基づいて授業を行う。卒業後、社会に出て「すぐに動ける」ための土台となる態度、実践的研究に必要な知識やスキル等を身に付けることを目的とする。研究実践や体験実習を学生が主体的に経験し、振り返りを行うことによって、音楽コミュニケーションデザインの学びの諸要素を統合的に身につける。
13	壬生 千恵子 木谷 智子	音楽コミュニケーションデザイン基礎演習I	2~4	2	音楽文化学科	主要	演習	音楽コミュニケーションデザイン領域での学びに必要な研究スキルや各論の基礎、3・4年生が行う音楽企画制作に必要な実務的知識の初歩を学ぶ。後期の音楽コミュニケーションデザイン基礎Ⅱでは、実際に研究実践の補助を経験することで、実践や研究で主体的に動けるために必要な態度、知識やスキル等を習得することが目標とされており、本授業ではそのための土台となる諸要素を身につけることを目標とする。本授業は、応用音楽諸学の研究に基づきつつ、担当教員の文化財団管理職、国内外の舞台制作・音楽企画プロデュース・劇場運営の経験に紐づけて、実践的な授業を行う。
14	井筒 敦子	幼児理解と保育相談	3	2	音楽文化学科	専修	講義	長年にわたる幼稚園教諭、園長としての豊富な経験を活かし指導を行う。本講義においては、幼稚園において、初めての集団生活で起こってくる様々な幼児のつまづきや問題行動について知り、幼児の発達や生活をよりよく支援できるようなサポート型な対応の仕方について学ぶ。幼児理解に基づいたサポートの視点や方法について、理論と事例にもとにアクティブラーニングを通して体験と検討を重ねる。カウンセリングの基礎的な理論や技法を学び、ロールプレイングで適用の練習をし、記録を取ってみる。記録をもとにより良い対応について検討し、さらに考察を重ねる。また保護者への対応についても知り、社会的資源と連携しながら解決へと導くことについても学ぶ。
15	壬生 千恵子	音楽文化概論Ⅳ(応用)	1	2	音楽文化学科	主要	演習	文化財団管理職、劇場、国際音楽祭など、国内外の舞台制作・音楽企画プロデュース・劇場運営の経験に基づいて授業を行う。この授業では、主に音楽コミュニケーションデザインを学ぶ3・4年生が行う制作実習および実践的研究の補助を経験することで、すぐに「考え・動き・取り組める」人材になるために必要な基礎態度を養い、心理、音楽療法、音楽教育、アートマネジメント、コミュニケーション理論など、関連する諸学問領域の在り方や学びの方向性についての理解を深めることを目的とする。大学内外での多くの見学や実習補助を経験し、その振り返りを行うことで、これから自分たちが学び身につけるべき諸要素を自覚する。
16	坪北 紗綾香	編曲法(合奏)	2~4	2	演奏学科	主要	講義	作曲家としての豊富な経験と実績を活かし、作曲・編曲の指導を行う。様々な編成及びジャンルの編曲を通して、楽器の特性や音色の組み合わせ等編曲の基礎から応用を学び、編曲法の基本的な知識と技能を身に付ける。
17	林 裕美子	室内楽(声楽)-1	2~4	2	演奏学科	主要	演習	フランス留学(パリ・エコールノルマル音楽院)以前から現在に至るまでの数多の室内楽、オーケストラ等との共演実績から、声楽と管弦打楽器との共演可能な作品を、学生各自の能力、履修生の専攻楽器に応じて提案し、アンサンブルの喜びを通して表現力を身につける。
18	甲斐 摩耶	室内楽(弦楽器)-1	2~4	2	演奏学科	主要	演習	国内外のオーケストラでコンサートマスターを務め、さらに様々な室内楽、ソロ作品を演奏した実績や東京藝術大学における室内楽科、ピアノ科で室内楽の授業を非常勤講師として担当した経験を活かし、指導を行う。アンサンブルを通して、本当の意味で聴く力を身につける。
19	小川 裕雅	室内楽(打楽器)-1	2~4	2	演奏学科	主要	演習	打楽器奏者として国内外での演奏活動の中で、多くのジャンルの音楽奏法の研究を行ってきた実績をもとに、表現が多様な打楽器アンサンブルの無限の可能性を探っていく。打楽器アンサンブルを通して、多種多様な楽器での音楽的表現法を学修する。打楽器アンサンブルの歴史をたどりつつ、様々な時代の作品に触れる。
20	折河 宏治 羽山 弘子 平野 満	オペラ研究 I	2~4	2	演奏学科	主要	演習	オペラ歌手(折河・羽山)、副指揮(平野)、マエストロ・ソステイタート(平野)としての豊富な経験をもとに、学生たちにオペラ制作にどの様に携わるかを実際に体験させ、アンサンブルを創っていく事により、一人ひとりの個性を尊重し合い、ひとつの音楽社会のあり方を探求していく。
	合計			40				